



「新しい歌を主に」(要旨)

聖書箇所：詩篇96篇

【1】新しい主に歌え

詩篇 96 篇は「新しい歌を**主に**歌え。全地よ **主に**歌え」と賛美の招きから始まります。全ての造られたものが**主**なる神をほめ称えるよう、「全地よ」と呼びかけます。世の中には様々な歌があります。王に奉獻する歌、戦地に赴く軍隊を鼓舞するための行進曲など。これら歌は「人に」向けられます。一方、賛美する者は「**主に**」向かって歌います。賛美は、私たち人間を含め全ての創造主であるお方にささげるものだからです。

【2】御救いの良い知らせを告げよ

私たち被造物が主に新しい歌を歌うのは、主の「御救い」(詩 96:2)を喜び感謝するからです。興味深いことに、神に向かって賛美をささげる者は「良い知らせ」(福音)を届ける者だということです。「良い知らせ」は、「日から日へ」、「国々」や「あらゆる民」に届けられます。賛美の歌は「**主に**」向かうものであると同時に、世代や国を超えた人々に「御救いの良い知らせ」を届けます。使徒の働きに記されたパウロとシラスの賛美は、神を知らない人々に福音を告げ知らせました(参照:使徒 16:25~34)。パウロたちの真夜中の賛美の歌を聞き入っていた囚人たちは地震によって牢獄の扉が全部開いて鎖が外れてしまった出来事を偶然と捉えませんでした。神への賛美の歌声が、「御救いの良い知らせ」を、囚人、看守、そしてその家族に告げていたのです。

▷私たちがささげる神への賛美は、国や世代を超えて神の威厳と威光、栄光と力を告げます。

【3】主に帰せよ

96 篇 7~9 節は、神の被造物である私たちが、神に栄光と力を帰して礼拝するよう勧められています。私たちは、神を礼拝する者として神のかたちにつくられましたが、神に背き神から離れました。その結果神を神

として認めず、偶像(木や石の像に限らず、富、名誉、快樂など、私たちが「神」以上に価値を置くもの)を自分の神々として拝む者になりました。「礼拝」(Worship)とは、「神を神とすること」であり、その神にふさわしい「価値」(worth)を神に帰すことです。価値あるお方に謁見を許された者は、喜んで「ささげ物を携えて」、「聖なる装いをして」赴くことでしょう。

【4】主は必ず来られる

「主は必ず来られる。地をさばくために来られる。」(詩96:13)

詩篇 96 篇 10~13 節は、天と地、海とすべての被造物に神への賛美を促し、全ての創造主であるお方が世界をさばくために来られるという終末の希望で結ばれます。

詩篇には「新しい歌」という表現が繰り返し登場します(詩篇 33:3, 40:3, 98:1, 144:9, 149:1)。

「新しい歌」とはどのような歌なのでしょう？それは、「神に対するみずみずしい信頼」と言えるでしょう。

まず、新しい歌を主に歌う者は、過去に主が良くしてくださったことを忘れないよう、その出来事を口ずさみます。主の御業を過去の出来事として想起するだけでなく、今日も全てを治めておられる主に栄光と力を帰し、主を礼拝します。そして、主の再臨の日を待ち望んで喜び躍ります！

▶「新しい歌とは、主イエス・キリストの死と復活、その贖罪のわざを信じて、新しくされた者の歌であり、新しくしてくださった方にささげる賛美と感謝、願いの歌である」

(岳藤豪希訳編『教会合唱曲集1』いのちのことば社)

▷主が過去、現在、そして将来を守り導くと信じる者の口には、みずみずしい救いの喜びがあふれて「新しい歌」が生まれます。

新しい年、**主**の御業を感謝し喜びをもって**主に**歌おうではありませんか！